

農林業の発展を誓う

町産業振興大会

たゆまぬ努力に表彰状

町産業振興大会は一月三十日、ふれあい宿舎グリーンテーで開かれ、町の産業に関わる約百人が集いました。

大会で鈴木重男町長は、「農業生産資材や粗飼料の高騰など厳しい時代ではあるが、このピンチをチャンスに代えて共に乗り越えよう」とあいさつ。県畜産共進会で一等賞を受賞した酪農家三人に町長表彰の産業経済優秀賞が贈られた後、農業や林業で活躍した人を表彰し、功績をたたえました。

続いて、本年度新規就業した三人が紹介され、森林組合で働く佐藤康さん(31)は、「葛巻の森林のため役立ちたい」と決意を述べました。また、新たに家族経営協定を締結した三組の農家も紹介され、中家重夫さん(58・吉ヶ沢)は、「経営を見直すいい機会です」と協定の意義を話しました。

最後に、さらなる農林業の発展を誓って大会決議を満場で承認し大会を閉じました。

その後、盛岡市在住の漆芸家・全龍福さんが「地域文化の大切さ」と題して記念講演。巧みな日本語で会場を沸かせました。

表彰された方々は、表のとおりです。(敬称略)



決意を述べる新規就業者の佐藤康さん

家族経営協定締結者の紹介で、照れくさそうに起立した皆さん



優良農家などの表彰を行った町産業振興大会

表彰

町長表彰

産業経済優秀賞 ▷折元大樹(遠矢場)▷中六角保広(中村)▷八幡勝幸(赤井田)

町産業振興協議会長表彰

優良農家等表彰 ▷優良牛乳生産者 馬場光夫(星野)、落合隆一(鍋倉)、東館正信(吉ヶ沢)、村田敏幸(山岸)、林文男(小屋瀬)▷年間平均最高乳価生産者 大上孝宏(上平)▷和牛子牛最高販売額生産者 千葉幹子(塚森)、東館正信(吉ヶ沢)▷山ブドウ栽培優良生産者 畠山チヨ(垂柳)▷葉タバコ栽培優良生産者 星野安雄(馬場)、桂川司(鷹の巣) **農産物・花き共進会** 金賞▷ハウレンソウ・川原利男(名前端)▷キャベツ・瀧澤安蔵(吉ヶ沢)▷小豆・鈴木禮一郎(田代)▷小菊・小谷地重男(小田)▷トルコギキョウ・亀山勇子(星野) **造林・育林・間伐共進会** 最優秀賞▷造林の部・三好政吉(小屋瀬)▷育林の部・折元清三(遠矢場)▷間伐1の部・里見幹雄(西里)▷間伐2の部・入月久美(橋場)▷天然改良の部・岩脇春三(野中)



日本の牛乳を守りたい!

酪農シンポジウム開催

近年のバイオエタノール需要増加による配合飼料価格等の高騰や、乳価の低迷などで安定的な牛乳の生産が困難になっていることを受け、酪農家らが二月二十六日、「酪農シンポジウム」を開催し、厳しい現状を訴えるとともに消費者への理解を求めました。

酪農家が意見交換

会場の盛岡市玉山区「姫神ホール」には、酪農の危機的状況とあって約五百人を超える農家が集合。本町からも酪農家や関係者約80人が駆け付けました。

奥中山農協管内の澤口松男さんが主催者を代表して「現行の乳価

では生活できないような現状。牛乳を安心・安全な体制で消費者に届けるため、酪農家自身も厳しい現状を正しく理解し、消費者にも理解してほしい」と開催の趣旨を説明。鈴木宣弘東京大学大学院教授が「飼料高騰と日本酪農の対応方向」と題して基調講演。パネルディスカッションで、中村哲雄前町長がコーディネーターを務め、鈴木教授、酪農家、販売組合や乳業メーカーなどが現状を訴えるとともに意見交換をしました。

盛岡市の石川努さんは「気持ち一つにし、目標に向かってまい進しよう」と力強く決意表明。八幡平市の竹内顕さんが「消費者の皆さん、これまで以上に岩手の牛乳をたくさん飲んでください」と、声高らかに呼び掛けました。

飼料高騰受け 町の対策本部で連携強化

町は二月一日、「農業生産資材・飼料価格等高騰対策本部」の第一回会議を開催しました。

新しいわて農協、八幡平農業改良普及センターや農家代表などの委員と、関係機関の事務担当者らの幹事会のメンバー十六人が出席。本部長の鈴木重男町長は「酪農にとって過去に経験したことのない危機的状況。知恵を出し合い、難局を乗り越えよう」とあいさつしました。

町は、来年度実施予定の支援策などを説明。委員は現状を報告し関係機関や農家などが情報を共有し、連携して経営健全化に取り組むことを確認しました。

また二月二十二日、北海道浦幌町の模範牧場長・三宅英彰氏を招いて「えさづくり講演会」を開催し、草地や牛の管理などを学びました。「収入を増やし、支出を抑える」ための秘策を伝授され、参加した酪農家は厳しい状況を打開しようと意気込みました。



①えさづくり講演会②講師・三宅英彰氏③対策本部の第1回会議④農業委員会が町長に粗飼料対策を要望する建議書を提出